

静岡

3月19日(土)、東名高速道路愛鷹パーキングエリアに接続する愛鷹スマートIC(沼津市宮本)が開通した。同月12日に開通した大井川焼津藤枝スマートICとともに東名本線直結型で、全国83ヵ所、静岡県内7ヵ所目となる。

愛鷹スマートICの設置により期待される効果は、「防災拠点へのアクセス性向上による緊急活動の支援」、「周辺地域からの救命センターへの搬送時間短縮と定時制の確保」という地域の安心・安全。「高速道路へのアクセス向上による産業支援」、「新たな玄関口による観光振興」という地域の活性化だ。

地域の安心と安全については、特に、スマートICから大規模災害時に自衛隊の集結場所兼活動拠点(富士通沼津工場)まで車で3分の近距離にあり、さらに、このスマートIC設置により、これまでの沼津ICからのルートと合わせて2ルートによる緊急支援体制が確立された点が大きい。

地域経済の活性化については、沼津市西部の主要産業拠点である片浜工業地域、浮島工業団地は高速道路へのアクセス性の向上により、企業誘致促進や雇用拡大などに繋がる。県内大手物流会社は、5月には稼働する計画でスマートIC近接地に物流センターを建設するなど、既に企業の動きが出始めている。さらに、愛鷹スマートICは、富士市以西からの観光客を迎える新たな玄関口となるため、新たな誘客が期待される。沼津港エリア周辺には、新鮮な魚介類を提供する飲食街をターゲットに年間約150万人の観光客が訪れているが、その大半は関東圏からである。沼津市は本年度、スマートICを活用した旅行観光会社向けのモニターツアーを実施し、渋滞が多い市街地を迂回する新たな観光ルートの開発により日帰り客の更なる獲得を狙っている。

今回の愛鷹スマートICに加え、29年3月の供用開始を目指し工事が進められている新東名高速道路駿河湾沼津スマートIC、さらに東駿河湾自動車道の西区間(岡宮～愛鷹)新規事業採択など社会資本整備は、今まで開発が遅れ気味であった沼津市西地区に発展の機会を与えている。既に地元商工会は道の駅構想を打ち出している。また静岡県は、東海大学開発工学部跡地(沼津市所有)に健康増進のための機能性が科学的根拠により明らかな「アグロメディカルフーズ」の研究開発を行なう農産物先端研究施設を整備する計画を発表した。さらに、愛鷹スマートICを南下した国道1号近くに郊外型大型ショッピングセンター出店の計画もある。

ハード整備は地域発展の必要条件かも知れないが、十分条件ではない。地域の自然や歴史、文化などを見つめ直し、地域ならではの視点が必要である。そうすることにより、真の意味での人とモノとの交流を創造することになる。スマートICなどのハードを賢く利用し活用するのは地元企業の企業であり、地元の人々である。千載一遇のチャンスとして捉え、魅力と活力にあふれ、賑わいに満ちた地域づくりを進めて欲しい。

## 地域活性化に繋がる 愛鷹スマートIC開通



地域待望のスマートICオープン